

# 緊急 トップインタビュー

南三陸ホテル観洋（宮城県南三陸町）

女将 阿部 憲子さん(58)

コロナ禍をどうしのぐか各界のリーダーに聞くシリーズ。今回は宮城県南三陸町の南三陸ホテル観洋を率いる女将(おかみ)阿部憲子さん(58)です。

◇  
一東日本大震災に続く災禍です。

国難の域を超え、世界が苦境に立たされています。震災時は国内外の人に助けていただき、本当に救われましたが、今回は誰もが困窮しています。終息を待つばかりでは、事態は深刻化します。おかげさまで震災を乗り越えたからこそ、この事態にも動じません。教訓は「やれることからやる」。とにかく行動することが大事です。動けばそれが自信になり、次の発想が生まれ、仲間を呼びます。

一宿泊業は影響が深刻です。

まさに直撃です。人と人との接触を減らす必要がある以上、仕方ありません。

## 地域の浮沈 宿泊業が左右



「負けない」と意気込んでも、勝てる相手ではない。現実を受け入れ、「では何をするか」が肝要です。

一宿泊業の経済効果の大きさを力説しています。

食材、飲料、土産品、アメニティー…。当ホテルの場合、取引業者は旅行代理店を含まなくても100を超えます。旅館・ホテルがなくなると、直接の雇用も含め地域経済へのダメージは

新型コロナウイルス

ともに  
乗り越えよう

大きいのです。観光はいま不要不急の象徴のように言われますが、宿泊施設は災害時は避難所となり、今回も軽症者らのシェルターの役目を果たしているところもあります。人口減少時代、外から人を呼び込めるかが地域の浮沈を左右します。その拠点の旅館・ホテルが地域から消えないよう、コロナ後も見据えた施策をお願いします。

### information

宮城県内の旅館・ホテルの女将33人でつくる「みやぎおかみ会」が中心となり、割増利用券の発行を計画している。コロナ終息後に使える券で、1万円で1万3000円分を返す。苦境にある宿だけでなく、外出自粛に耐えている家族の励みにもなれば、と「みやぎお宿エール券」と名付ける。問い合わせは南三陸ホテル観洋0226(46)2442へ。

企画・制作/河北新報社営業局